



ふくしま連携
復興センター

つながる
チカラを、
ふくしまの
「進む力」へ

1. ふくしま連携復興センターの紹介

復興を前進させ、ふくしまが新たな価値を創造するためにふくしまの課題解決に取り組む人や組織が有機的に結びつき、それぞれの役割を充分果たせるよう下支えをする団体です。

設立の経緯

東日本大震災に見舞われる

避難所や仮設住宅での個別支援

NPOとして個別サポート

障がい者・要介護者・高齢者・子ども・孤立・・・

連携支援の必要性

福島大学災害復興研究所や県内のNPO団体の有志とともに
自立的な復興を目指して

2011年7月 中間支援組織として設立

運営体制

代表理事:天野和彦

役員会
理事6名
監事2名

事務局
事務局長1名
事務局次長1名
庶務会計担当1名

連携支援グループ
支援者連携班(7名)
拠点連携班・相談支援班(7名)
復興再生チーム(4名)



(支援者の皆さまと一緒に・・・)

1-1. 私たちのミッション

復興ネットワークを俯瞰して被災者・被災地に「抜け」、「漏れ」のない支援を行います。

支援継続

1. 世界史上初めての複合災害での被災者を一人も取り残すことの無いよう「原発事故子ども・被災者支援」に基づく「留まる」「避難する」「戻る」の住民の自己決定を尊重した支援継続をします。

風化防止

2. 東日本大震災への対応で得られた知見や教訓、被災実態の風化を防止するための情報発信を継続して行います。

社会課題

3. 人口減少、格差拡大に伴う地域社会の衰退に対し、市民協働の活動をさらに促進させます。

災害対応

4. 今後起こりうる大規模災害に対し、市民・行政の連携を深めることで防災・減災への備えを強化していきます。

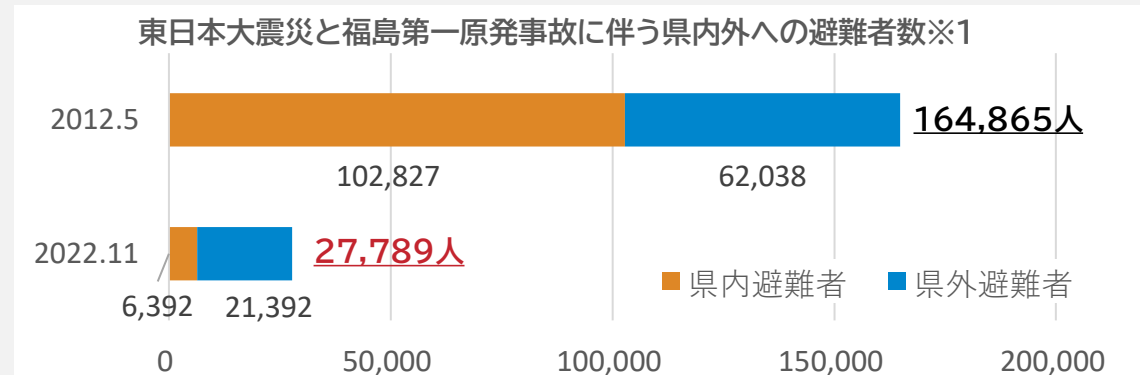
市民社会

5. 福島が抱える課題解決に取り組む市民活動団体等と、広範かつ積極的に連携を図り「共に助け合う市民社会・ふくしま」の構築に寄与します。

1-2. 震災が生んだ福島県の社会背景

震災による避難者はいまだ3万人近くいます。戻れない区域がまだあります。長引く避難生活による関連死も多くなっています。人口減少、高齢化、過疎化も進み、復興を難しくしています。

■ 3万人近い住民がいまだ県内外に避難



■ 拡大し続ける震災の人的被害

- 震災による死者数: 4,164人 ※1
内、震災と原発事故に伴う避難の影響で体調を崩すなどして死亡し、関連死2,333人
- 関連死亡者数が直接死亡者数を上回っており、いまだに増え続けているのが福島県の特徴
(13年12月に地震や津波による直接死を上回る)

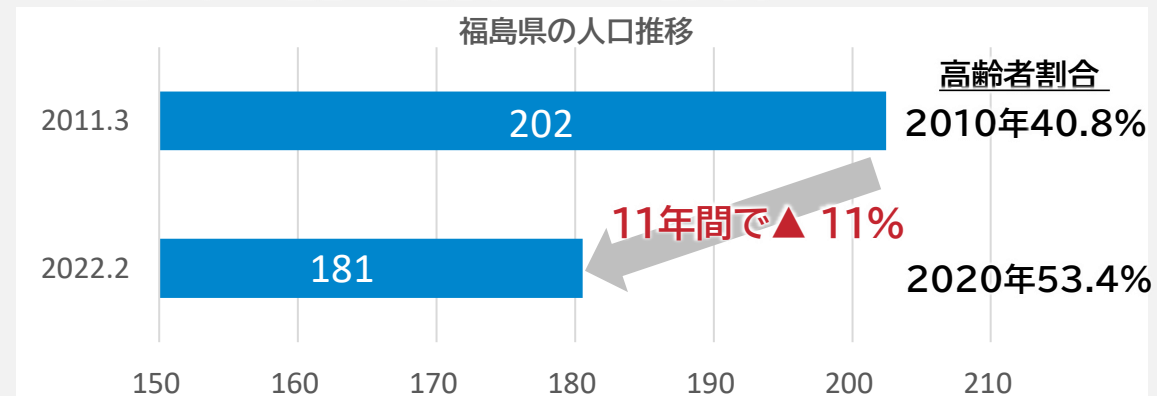
※1 平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報 (第1788報) 令和4年5月12日時点

■ 避難指示区域の存在

- 福島県の約2.4%の面積をしめる地域がいまだ避難指示等区域※2



■ 急激な人口減少、高齢化が進む福島県

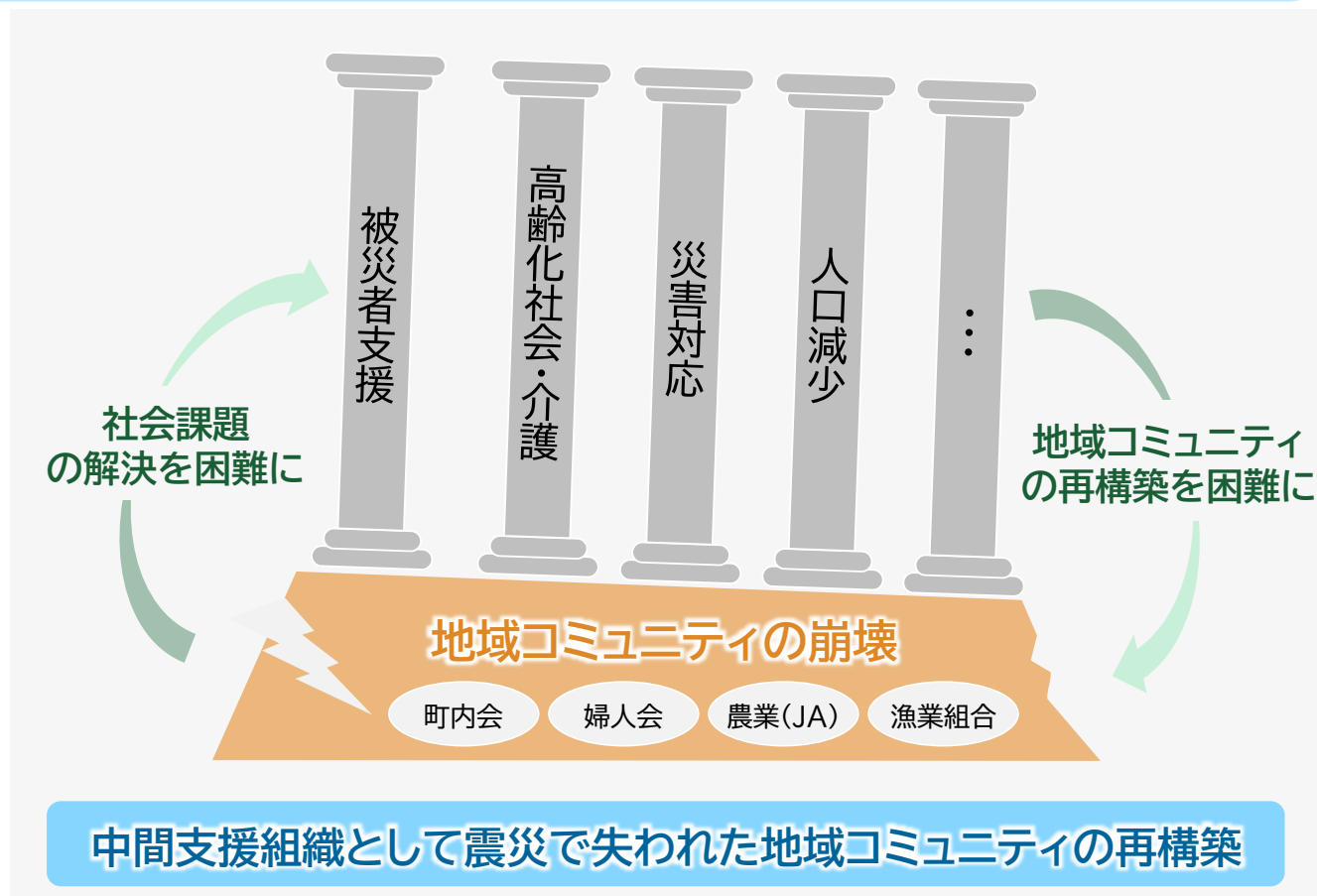
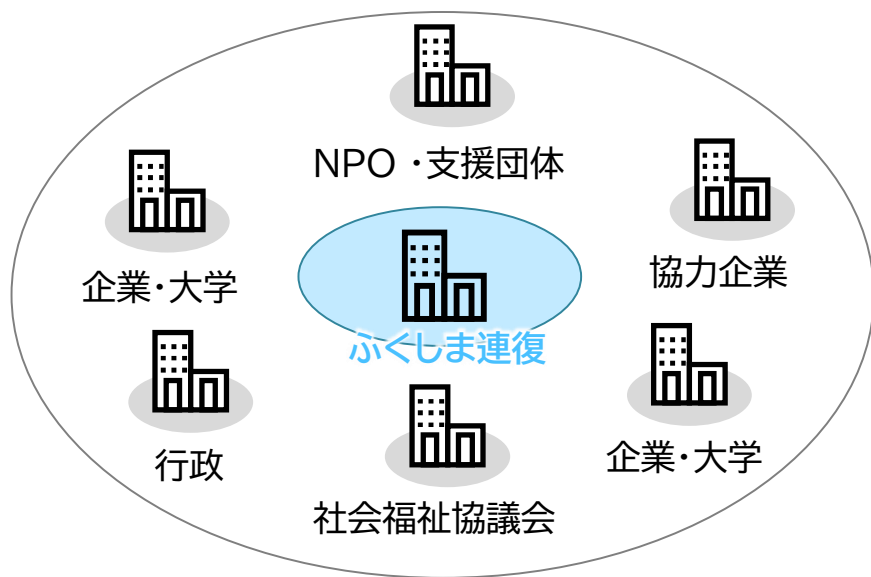


※2 復興庁 https://www.fukko-pr.reconstruction.go.jp/2018/fukushimanoima/10th_trajectory/reconstruction_housing/

1-3. 私たちの目的と目指す姿

目指す福島 の姿 Vision

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故が投げかけた課題を教訓として、その課題解決に取り組む多様な主体が連携を深化させ、人口減少・経済格差・社会的孤立の拡大防止に取り組む「共に助け合う市民社会・ふくしま」を目指す。

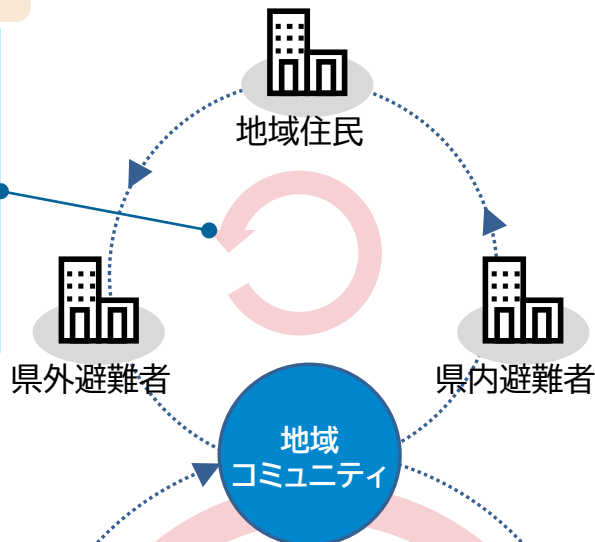


1-4. 私たちの役割

地域コミュニティの再構築

震災から10年以上がたち、住民や避難者のライフスタイル・コミュニティが変化

住民の課題・ニーズの把握、地域交流・協力活動の機会の創出などにより地域コミュニティを再構築



支援プラットフォームの構築

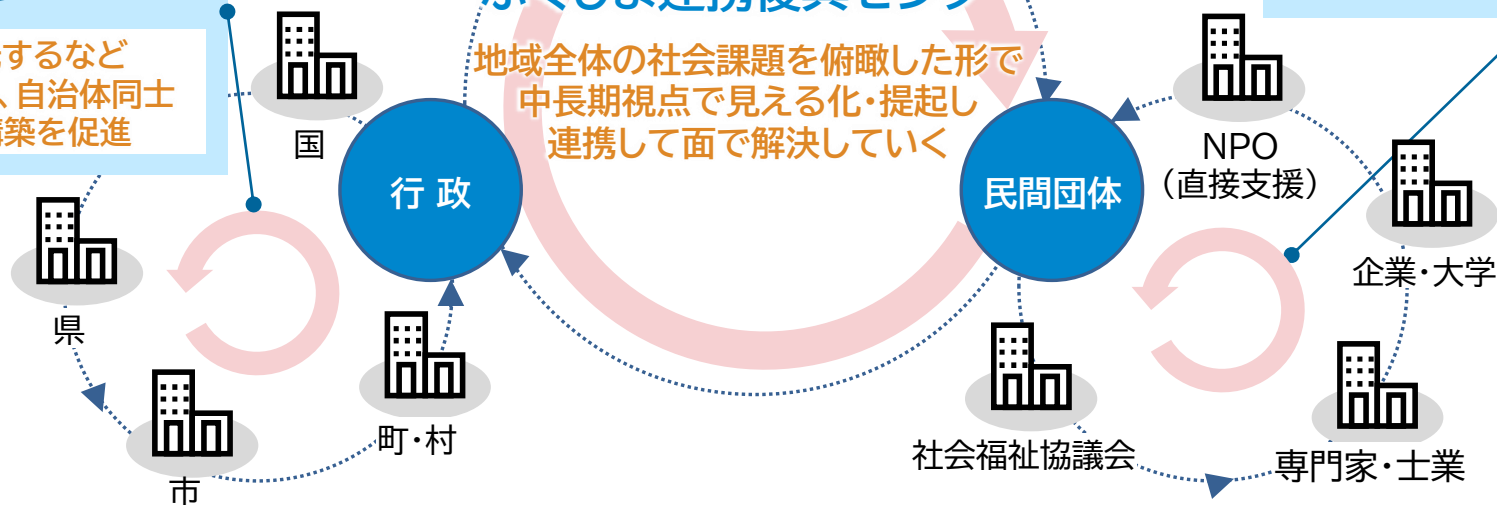
単独の組織・団体で解決できる問題はエリアやターゲットが限定される

課題解決する県内外の団体の発掘、支援プラットフォームを構築し、マッチングや活動支援を実施

自治体間の繋がり構築

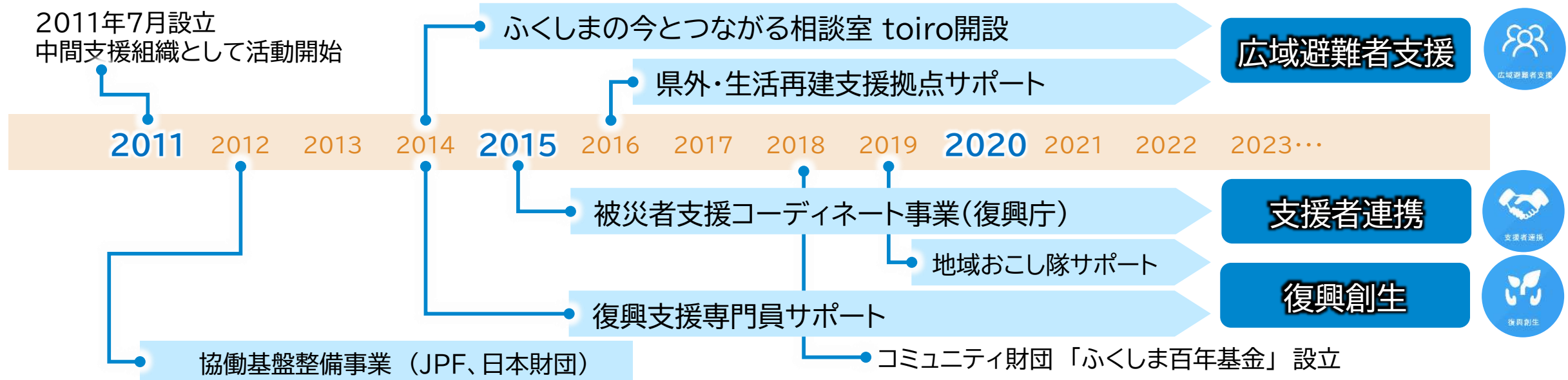
自治体同士の横のつながりが無く、自治体を超えた連携や支援がなされない

国や県から事業を長年受託するなど自治体との繋がりを活かし、自治体同士の情報交換、ネットワーク構築を促進



1-5. これまでの活動：3つの活動の柱

会員や市民らとともに、復興活動を推進しています。



2. 私たちが行っている活動



広域避難者支援



支援者連携



復興再生



県外避難者の生活再建や
帰還に向けた支援

広域避難者支援

全国26箇所に生活再建支援拠点(相談窓口)を設置し、避難されている皆さまの日頃の不安やお悩みごと、今後の生活に向けた相談対応や交流促進などの活動を行っています。



被災者が安定的な
日常生活を営むことを
目指して！

支援者連携

被災地の復興や被災者の生活再建などを支援するさまざまな主体とともに、福島復興を進めるために、支援者同士の連携調整や、情報提供、行政への事業提案などを実施しています。



福島の復興・創生の
新しい担い手を支援！

復興創生

福島県外から県内に移り住む人材の確保や定着の促進に向けた取り組みを行っています。具体的には移住先としての福島県のPRや、復興支援員及び地域おこし協力隊に対する側面サポート等を行っています。

2-1. 広域避難者支援



県外避難者が相談できる場を設置・運営し、生活再建や帰還に向けた支援を行っています。

◆ 相談室toiroの運営



ふくしま連携復興センター内に設置している相談室toiroでは福島県内外からの相談に対応しています。

最近1年間での相談件数
59件!

◆ 生活再建支援拠点の運営



県内外へ避難している人を全国26か所の生活再建支援拠点でサポートしています。

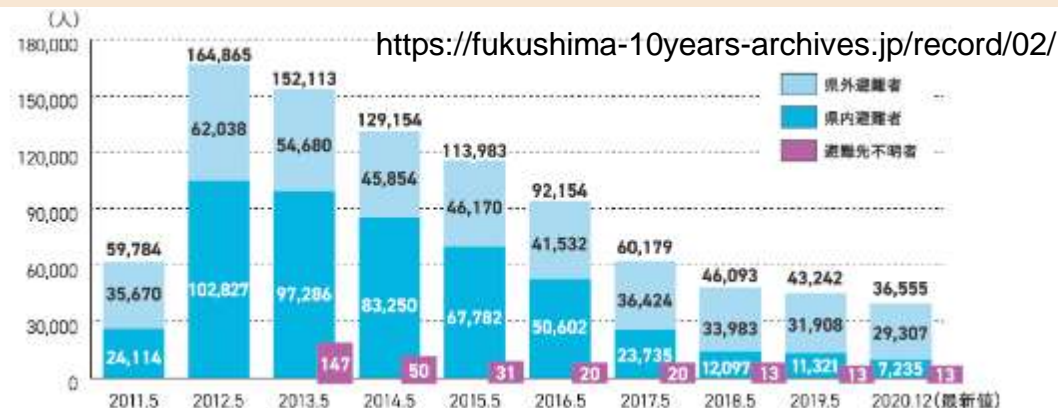
最近1年間での相談件数
1,347件!

全国26ヶ所拠点ネットワーク



全国各拠点のサポートメンバーが年2回集まり、情報交換し、相談対応の向上を図っています。

避難者の推移： 今もなお、3万人以上の避難者がいます。



2-2. 支援者連携



被災者が安定的な日常生活を営むことができるように、支援しています。

◆ 被災地域や被災者の現状と課題調査

被災地域や支援団体を継続的に訪問し、ヒアリングを行っています。

100件/年以上

◆ 個別支援とコーディネートの実施

活動資金の調達支援、活動基盤強化のための伴走支援
事業実施のための伴走支援、連携体制の構築支援、機会・物資の支援など、様々な支援ニーズに対応しています。

200件/年以上

◆ ふくしま広域こころのケアねっと

地域コミュニティをベースに、「実際に活動している支援団体」と「心のケアの専門家」をつなげるための後方支援を行っています。

◆ ふくしま生活困窮者支援ねっと

「実際に活動している支援団体」の間で、情報交換の場を設置したり、食料分配などの実際の施策について、後方支援を行っています。



しゃべくりエイト：双葉郡の「まちづくり協議会」の連携構築事業をサポートしています。

◆ 市町村自治体の事例共有会



◆ 川内コミュニティ未来プロジェクト



2-3. 復興創生



地域コミュニティの再構築など福島復興・創生を目的とし、その担い手を支援しています。

◆ 担い手の募集支援・広報活動

- 募集説明会、現地見学体験会、都内での相談対応活動、WEBサイト運営など、継続的に働きかけています。

最近1年間では、

23名の相談対応 → 3名採用

◆ 担い手の活動支援・受入態勢構築支援

- 「担い手」向けの研修および市町村職員など「受け手」向けの研修を継続的に行っています。
- 行政や地域の制度理解、関係者間の合意形成など、実務的なサポートを行っています。協力隊を担当する職員が、市町村の枠を超えて、制度運用上の知見を共有する場を設け、横のつながりと質の底上げを図っています。

◆ 担い手同志のネットワーク構築支援・定着支援

- 担い手同志の交流の場を設置し、お互いの活動を共有したり、他の地域の特色に触れたりしながら、つながりを深めています。
- 任期終了後の定着率が高くなるように、担い手の募集支援をしつつ、受け入れ側の態勢整備を進めています。



県外から集まってきた担い手が孤立しないように交流の機会を設けたりして、サポートしています。

◆ 市町村職員など「受け手」向け研修



「担い手」が
定住できるように！

2-4. 最近の活動実績



被災現場へ行って、聴いて、考えて、仲間と相談し、現在の活動に繋げています。

※2021年6月～2022年7月実績による



広域避難者支援

- 生活再建支援拠点での相談件数
…1347件
- 相談室toiroでの相談件数
…59件
- 専門アドバイザーによる拠点への助言
…2件
- 福島県との定例会 …毎月実施
- 定期連絡会議 …2回/年
- 相談員研修 …2回/年

相談内容は、支援策から生活相談に係るものへ変化し、複合化・個別化してきています。



支援者連携

- 被災地域訪問ヒアリング調査 …121件
- 支援団体への個別支援 …220件
- 市町村事例共有会 …1回
- 「しゃべくりエイト」 …1回
(Zoom開催、YouTube配信)
- 「ふくしま広域こころのケアねっと」 …10回
- 「ふくしま生活困窮者支援ねっと」
(全体会1回、分科会2回)
- 川内コミュニティ未来プロジェクト会議 …4回
- コーディネート事業案件共有会 …10回
- 「地域カルテ」の作成
- いわて・みやぎ・ふくしま3連復
合同シンポジウム (1回、参加者95名)

ソフト面の課題が多様化し、住民一人ひとりに寄り添う支援や、それを支える支援団体へのサポートが必要とされています。



復興再生

- 地域の担い手オンライン相談
9回実施、23名の相談対応、3名採用
- 担い手オープンキャンパス・現地見学会
2回実施、応募検討者15名参加
- 都内移住フェアにて相談ブース設置
2回実施、15組19名の応募検討
- WEBサイト運営 (専用HP、Facebook、LINE)
- 担い手向け研修 …4回
- 市町村職員向け研修 …3回
- 受入れ態勢構築支援 …2町村
- 市町村担当者定期連絡会議 …5回
- 担い手同志の活動報告交流会 …1回/年
- コーディネート事業案件共有会 …10回
- 地域おこし隊へのヒアリング・伴走支援 …20名

担い手の任期終了後の定着率を向上させることが課題です。担い手の支援と受入側の態勢整備が共に必要です。

次のステージへ 市民も、企業や団体も、協働する地域コミュニティ

成果

◆ 行政との信頼関係構築

- 団体立上時は、国・県・各自治体・NPO団体が一緒になって復興支援を推進してきました。
- 現在も受託事業などを通じ、連携して事業推進しています。

◆ 一人ひとりにケアする仕組み

- 中間支援として、震災前にはなかった仕組みやネットワークを作り、被災地や被災者を支援してきました。

◆ 支援団体同士の連携・コーディネート

- 被災者の現状や課題を把握し、地域内外の団体や企業をつなげ、自立していくための伴走支援を行ってきました。

社会課題

地域コミュニティの崩壊

- 避難によって、故郷に戻れない。
- 長引く避難による自身の高齢化と子供の成長
- 地域を支える支援組織自体が無くなった。町内会、子供会、婦人会、農業組合、漁業組合・・・見えにくいですが、これらの団体との活動が、市民と地域の接点であり、コミュニティを下支えしていた。
- 住居、仕事、過疎化、高齢者介護、インフラ未整備、経済格差・・・これらの社会課題が複雑に絡み合って、戻ってきても孤立化していく・・・。

3-1. 被災地域としての課題



地域のコミュニティベースの安全・安心な生活を取り戻すことが必要です。

厳しい災害・自然環境



地震



津波



放射能



台風

失われた地域・社会環境



農業



漁業



地域住民



学校



役所・企業



冠婚葬祭

多様化する個人環境



子育て



介護



高齢化



医療

長期的視点での地域課題を包括的に支援するための地域づくりが必要です。

- 震災前は、農業・漁業・畜産業を生業とした地域でした。青年団による祭り、婦人会による仕出し…。
- 大家族で暮らしていました。長引く避難生活により、家族がバラバラになり、別々に暮らしています。
- 避難指示解除となって、戻ってきても…生活環境や将来に不安があります。

3-2. 私たちの組織としての課題

自主財源の確保



1

自主財源

を確保する

復興予算は、徐々に少なくなっていくことが予測されます。東日本大震災から10年以上経った今、いつなくなってもおかしくありません。

マルシェの活動も、復興支援というよりも、ふくしまの魅力発信の機会に変わってきています。**助成金に頼らない独自事業**を模索しています。

自主事業の確立



2

自主事業

を育てる

復興支援は、2019年に突然訪れた台風災害に無力でした。**復興支援と災害支援**は似ているようで、異なっていました。

防災などの自主事業を確立し、育て、自主財源を確保していく活動が必要です。ふくしまの課題解決や未来に投資する時期に直面しています。

発信力の強化



3

ふくしまの今を

発信する。

中間支援組織として、**行政への働きかけ**は重要な役割の一つです。被災者はまだ立ち直っていない中で、復興予算は減っていく・・・私たちの存在意義が問われています。

中間支援の活動内容は理解されにくい状況にあります。社会人や大学生など**一般市民に届く、情報発信**を行っていきます。

3-3. これからの取り組み



ふくしまは、社会課題の先進地になりましたが、負けません。
皆さまの力を合わせ、一つずつ、一人ひとりに寄り添って、最後まで支援活動を続けます。



- ① 多様化に対応し、一人ひとりに寄り添うような支援活動を継続します。
- ② 複合的な問題に対応するため、様々な支援団体との連携を深めます。
- ③ 担い手の活動支援や受入態勢を整備し、私たちの「ふくしま」を創ります。

4. 市民参加・企業参加のお願い

市民も、企業も、支援者も、当事者も、協働する社会へ
「共に助け合う市民社会・ふくしま」へ



4-1. はじまりは、あなたとれんぱく！



はじまりは、あなたの社会に対するほんの少しの関心から。
私たちと、出来ることから少しずつ始めてみましょう。ふくしままで！

あなた・支援者

人・思い・熱意・関心・・・

人・体力・知力・スキル

余ったモノ、使えるモノ

賛助会員・寄付金 支援

サービス支援
本業と一緒にできること

ふくしま連携復興センター

コーディネート

資金調達・活動企画
伴走支援・交流の場

仕組みづくり

ネットワーク
伴走支援・資金調達

情報力と行動力

団体ヒアリング(100件以上/年)
支援対応数(200件以上/年)

課題当事者

貧困・経済格差

孤立・高齢・過疎

教育・仕事・住居

障がい・介護

防災・減災

私たちは、提案します。動きます。つなげます。

4-2. 日頃よりご支援頂いている皆様 - ありがとうございます。

共催・協力・後援等

株式会社三菱総合研究所
日清アソシエイツ株式会社
JSR株式会社
株式会社JTR
NTTドコモ株式会社
株式会社ABC Cooking Studio
ALSOK福島株式会社
インペリアル・タバコ・ジャパン株式会社
NEC株式会社
キャノン株式会社
キャノンマーケティングジャパン株式会社
KDDI株式会社
福島市市民活動サポートセンター
ふくしまNPOネットワークセンター
NPO法人ふるさと回帰支援センター
一般社団法人葛力創造舎
みちのく復興・地域デザインセンター
いわて連携復興センター
みやぎ連携復興センター
東日本大震災支援全国ネットワーク

支援元・助成金等

復興庁
復興庁福島復興局
福島県
公益財団法人トヨタ財団
公益財団法人日本財団
認定NPO法人日本NPOセンター
NPO法人ジャパン・プラットフォーム

ふくしまの未来へ、
みなさま一人ひとりのお力が支えになります。

賛助会員・寄付金など
継続的なサポートをお願いします。



〒960-8062 福島県福島市清明町1-7 大河原ビル2階
TEL:024-573-2732 FAX:024-573-2733
<https://f-renpuku.org/>

共に助け合う市民社会・ふくしま

被災者や被災地に寄り添った支援を継続します。



ふくしまの未来づくり

… 私たちと一緒に始めましょう。

つながるチカラを、ふくしまの「進む力」へ